

鳥獣害に強い地域づくりを目指して

～地域が一丸となって鳥獣害対策をしましょう～

夏の時期になるとクマの目撃情報が寄せられます。野外活動が多くなる季節ですので、山に入る場合など十分に注意して下さい。昨年(2006年)、市内でも、南アルプス山系、八ヶ岳山系、瑞牆山系、茅ヶ岳山系などで、7月頃から11月下旬頃まで目撃情報が寄せられました。出没が多かった要因は、クマ本来の生息地である奥山の堅果類(ドングリ等)が不作であったことが、クマの行動圏を拡大し目撃情報につながったのではといわれています。

鳥獣害対策マメ知識

【ツキノワグマの生態】

主に植物性に偏った雑食性ですが、アリやハチなどの昆虫類、動物の死体なども食べることもあります。季節によって食性が変化するのが特徴です。(表参照)

冬季は樹洞や土穴などで冬眠し、冬眠中に1頭あるいは2頭の子を出産します。暖かくなると活動を始め、繁殖は初夏6月～7月といわれています。木登り、穴掘りなどのための力が強く、爪も発達して、嗅覚は犬並みですが逆に、視力はあまりよくありません。明け方と夕方の行動が活発といわれていますが、日中も活動しています。

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
行動	← 交尾期 →			← 行動範囲拡大 →			← 冬眠へ →	
食べ物	ヤマグラブ・キイチゴなど		ナラ類・クリ・ブナなどの木の実					
	← 昆虫類(アリ・ハチなど) →							
人と遭遇	山菜採り	← キャンプ・登山・キノコ採り等山の遭遇、事故が多い →						

【クマに遭遇しないために】

クマによる被害を防ぐためには、遭遇や人里への出没を避けるための方策が必要です。クマの生息地にいること、生息地に立ち入ることを常に意識しながら、少しでも出会わないですむように心がけましょう。

- ・「鈴」や「ラジオ」など音のするものを携帯し、人の存在を知らせましょう。
- ・クマの痕跡をみつけたら、なるべくその場から引き返しましょう。
- ・他の野生動物同様、集落のカキやクリ、生ゴミ等は「えさ」となります。未収穫作物の早期回収など、日頃からクマを寄せ付けない集落環境づくりをしましょう。
- ・キャンプやバーベキュー時など食べ残しや残飯等の持ち帰りましょう。

